

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合(統計情報総合)研究事業）
総括研究報告書

ICD-11での漢方医学分類の国際展開に向けた調査研究

研究代表者 渡辺賢治 慶應義塾大学環境情報学部

研究分担者 吉野鉄大 慶應義塾大学医学部

研究要旨

本研究ではWHOに協力しながら日本漢方分類の特性を残した国際伝統医学分類の完成を目指すとともに、国際伝統医学分類に対するさまざまな意見を収集・分析することを目的とした。

2017年度は漢方医学分類が入った国際伝統医学分類の開発の最終年度に当たり、最終版の作成をするとともに、コーディング・ガイドの完成ならびに短い症例によるフィールド・テストを行った。これらの開発に対する海外からの意見を収集したところ、概ね好意的な意見が多かった。

漢方分類は当初の予定通り、すべて国際伝統医学分類に盛り込まれ、慶應義塾大学の漢方医学外来でデータを収集した。

開発は今年度で終了となるが、今後は普及に向けたさらなる国際プロジェクトの継続が確認された。今後伝統医学の章を含めたすべてのICD-11の最終版が確定され、2018年6月にWHOからリリースされる。

A．研究目的

WHOに協力しながら日本漢方分類の特性を残した国際伝統医学分類の完成を目指すとともに、国際伝統医学分類に対するさまざまな意見を収集・分析することを目的とした。

国の専門家で10例ずつ作成し、計40例について、電話会議でブラッシュアップを行い（資料1）、それを日本語訳した（資料2）。それらの症例につき、WHOが管理するICD-FITというフィールドテストのシステムを用いて行った（資料3，4）。

B．研究方法

WHO主導のフィールドテストへの協力と漢方医学分類への反映（渡辺）

WHOと協力して、ICD-11ベータ版の妥当性を検討するために、フィールドテストを行った。

フィールドテストは昨年度までは、A4一枚程度の実臨床に則した詳細な症例に対して行う予定で、日中韓で各々30例ずつ、計90例の中から30例を選択して国際的に行うことを計画したが、コーディングのテストというよりも臨床診断のテストの意味合いが強くなり、コーディングのテストに特化するために、他の章と同様、非常に短い記載の症例（ライン・コーディング；30～70ワード程度）で行うことを決定した。日中韓および英

コーディング・ガイドの作成（渡辺）

国際伝統医学分類を実際にどのようにコードするのか、WHOでコーディング・ルールを作成する作業に協力した。

国際伝統医学分類に関する国内外の評価の収集ならびに分析（渡辺・吉野）

ICD-11の伝統医学分類に対する国内外の評価について収集した。

漢方分類のエビデンスの収集（吉野）

国際伝統医学分類の漢方分類に準拠した診療情報を慶應義塾大学病院の漢方医学センターにて収集し、分析した。

伝統医学分類会議の日本での開催（渡辺）

国際伝統医学分類に対する第2回編集会議を、8月29日～31日の3日間、東京麹町の日本病院会の会議室で開催された。WHOからの参加4名を含め、東京で開催された(資料5)。

WHO-FIC 会議での報告ならびに情報交換（渡辺）

本研究の成果は日本のみならず世界におけるICD 全体とも整合性を取る必要がある。2017年のWHO-FIC (WHO国際分類ファミリー) 年次総会は10月16日～21日にメキシコシティで開催された。そこに参加してICD全体の改訂の進捗ならびに伝統医学分類に対する評価について情報収集した。

(倫理面への配慮)

分類ならびに用語作成の際には個人情報を含め盛り込まないため、特に該当しない。

C . 研究結果

WHO主導のフィールドテストへの協力と漢方医学分類への反映

ライン・コーディングは2017年9月～10月にかけて行われた。日中韓欧の専門家53名が参加し、40の症例に対して有効コード数は2081であった。今後米国の専門家24名および欧州の専門家がさらに参加する予定である。

日本は40の症例に対して、日本診療情報管理学会の協力を得て10名の診療情報管理士が40例についての西洋医学病名、伝統医学疾病、証につき、ICD-FITに入力した。

コーディング・ガイドの作成

コーディング・ガイドについては2017年8月に日本で開催されたICD-11伝統医学分類編集会議の席で議論され、2018年4月に上海で開催された国際伝統医学分類に対する第3回編集会議で最終版が作成された(資料6)。

国際伝統医学分類に関する国内外の評価の

収集ならびに分析

2017年5月3日～5日にベルリンで開催されたWORLD CONGRESS of INTEGRATIVE MEDICINE & HEALTH 2017に参加した。これは伝統医学を含む、統合医療に関する専門家800名が世界60カ国から参集する学会で”Globalization of Traditional Healing Systems“ というシンポジウムで、WHOの伝統医学担当官のQi Zhang氏とNenad Kostanjsek氏とともに、ICD-11における伝統医学の章について話をした(資料7, 8)。参加者からは好意的な反応が多かったが、何故東アジア伝統医学だけなのか等懐疑的な質問も見られた。

続く5月6日には国際日本漢方協会の第4回シンポジウムが同じくベルリンで開催された(資料9)。この会は日本漢方を行う世界中の研究者40名ほどが集まる会議であるが、ここでWHOのNenad Kostanjsek氏とともにICD-11における伝統医学の章についての話をした(資料10)。ここでも概ね好意的な意見が出たのと、フィールドテストへの参加に関心を示してくれた医師もいた。

漢方分類のエビデンスの収集

2014年6月1日～2018年1月19日までに慶應義塾大学漢方医学センター外来を受診した初診患者1,156名について、伝統医学の章を用いたコーディングの集計結果は以下の通りであった。

【虚実の証】

SE74 (実証) 252、SE79 (中間証) 437、SE75 (虚証) 467

【寒熱の証】

SE72 (熱証) 95、SE78 (中間証) 438、SE73 (寒証) 441、SE7A (寒熱錯雑証) 169、該当なし 13

【気・血・水】

SE90 (気虚証) 274、SE91 (気鬱・気滞証) 356、SE92 (気逆証) 95、SF00 (血虚証) 183、SF01 (瘀血証) 275、SF11 (水毒証) 174

SF90 (下焦の虚証) 220、SF10 (亡津液証) 5、
該当なし 42

という結果であった。気血水は2つまで選択
できる、というルールであったが、平均1.405
の気血水コードが付与されていた。

伝統医学分類会議の日本での開催

国際伝統医学分類に対する第2回編集会議
が東京で開催され、WHOからは伝統医学部
門のQi Zhang氏、Sangyoung Ahn氏、Nenad
Kostanjsek氏とStephane Espinosa氏の4名
が参加した。

会議では1) 伝統医学分類の最終版作成、
2) フィールドテストに向けたライン・コー
ディングの作成、3) コーディング・ガイド
ライン、4) ペンディングになっていた用語
の確認、を行った。

その上で、これが伝統医学分類開発の最後
の会議となることを確認し、今後は普及に向
けた新たなプロジェクトがスタートするこ
とになった。

WHO-FIC 会議での報告ならびに情報交換

2017年のWHO-FIC (WHO国際分類ファミ
リー) 年次総会では、初めて伝統医学のセッシ
ョンが正式なプログラムとして取り上げられ
た。WHOのNenad Kostanjsek氏と渡辺で司会
進行をした。渡辺から伝統医学の章に関する開
発の経緯を説明した後、中国、韓国、日本にお
ける伝統医学のフィールドテストの状況につ
いて報告した(資料11)。その後の質問では、
米国、英国、コロンビア、ロシア、スペイン、
アルゼンチン、メキシコ、ブラジルの専門家か
ら質問があった。それぞれの国で鍼灸を中心に
アジア伝統医学が広がっており、国際伝統医学
分類に対する強い期待が表明された。

D . 考察

ICD-11改訂作業もほぼ終了したが、国際伝
統医学分類もフィールドテストを行い、ほぼ終
了した。海外での評価は概ね好意を持って受け

入れられているようである。漢方医学分類に関
しては十分にデータとして収集可能である。

E . 結論

ICD-11のリリースに向けて、漢方医学分類
を含む国際伝統医学分類の準備状況は概ね整
った。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

論文発表

渡辺賢治 伝統医学が国際疾病分類 (ICD)
に入る意義その1 漢方の臨床 64:
613-621, 2017.

渡辺賢治 伝統医学が国際疾病分類 (ICD)
に入る意義その2 漢方の臨床 64:
733-742, 2017.

渡辺賢治 伝統医学が国際疾病分類 (ICD)
に入る意義その3 漢方の臨床 64:
849-858, 2017.

渡辺賢治 伝統医学が国際疾病分類 (ICD)
に入る意義その4 漢方の臨床 64:
959-969, 2017.

学会等報告

Kenji Watanabe : Traditional Medicine
(TM) Chapter in ICD-11 The 4th
International Symposium for Japanese
Kampo Medicine, Berlin, 2017/5/6

Kenji Watanabe : Lessons from the
development of International
Classification of Traditional Medicine,
Berlin, 2017/5/3-5,

Kenji Watanabe : TM chapter in ICD-11
WHO Meeting 2017, Mexico City,
2017/10/16-21

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

